

これは、为什么呢

○目標となる資質・能力

セルフコントロール能力、思いや考えの表現力、仲間づくり・絆づくりに資する力

○指導のねらい

- ・考えを自分のことばで相手に伝えることができる
- ・目標物を注視する

○準備するもの

衝立1組、ぬいぐるみ（牛、黒ウサギ）、シルエットクイズ用影絵カード（ボール）

○教育課程、実施時期

自立活動、年度初め以外（学級内の関わりができ、互いに話せるようになってから）

○留意点など

展開例		学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1	本時の活動を知る	・クイズを行うことを伝え、意欲を高めるとともに、多くの考えを発表するように促す
		これは、为什么呢	
展開 35分	2	クイズ「だれがとおったでしょう」 衝立の間を通り過ぎた動物が何かを考える ① うし ② 黒ウサギ 発表例「うしです。白と黒の模様があったからです」	（クイズの説明をする） ・衝立の間にある動物が通る ・一瞬なので、まばたきせずに見る ・答えだけでなく、理由も発表させる
	3	シルエットクイズ ① ボール ※シルエットクイズは生徒1名が出題となる ヒント例「動物ではありません」	（クイズの説明をする） ・影だけを見て答えを考える ・答えだけでなく、理由も発表させる ・出題者の生徒には、ヒントを自分で考えて、答えに導くようにさせる
まとめ 10分	4	感想を発表する	・活動で感じた思いをそのまま発表するように促す

参考

◎中学部（知的障害、肢体不自由）での実施

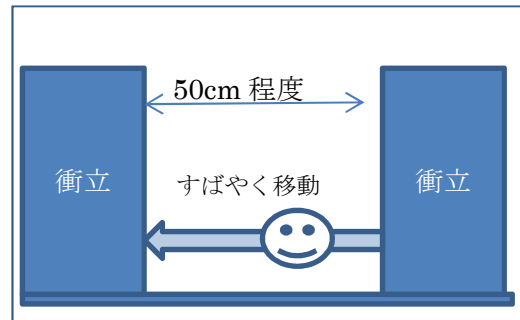
ゲームや遊びを通して、意見を発表したり、聞いたりして互いのことを意識する。同じ思いを持つことで仲良くなったり、違う意見を聞いて興味を持ったりすることもある。クラス内の友達関係作りの際に活用する。

○クイズ「だれがとおったでしょう」について

<方法>

- ① 生徒から見える幅を 50cm 程度にし、その両側に衝立を立てる。
- ② 生徒から見て、右側から左側へ向かって、すばやく動物のぬいぐるみを移動させる。

※慣れてきたら、衝立の幅を狭くする、対象物を移動させるスピードを速くするなどして、より注視する意識を高める。



<発表>

答えだと思ふ動物と、なぜそう思うのかを発表させる。その際、生徒が見て得た情報（色、形などの特徴）を自分の言葉で相手に伝わるように、文を組み立てて発表するようにする。一人だけでなく、できるだけ多くの生徒に発表させ、友達の情報と重複する際は、「〇〇さんと同じで、□□が見えたからです」等、発表の仕方も指導する。

○シルエットクイズについて

はじめは、「えんぴつ」、「はさみ」等、形がわかりやすく、生徒が普段からよく使用しているものを対象とする。今回は、いろいろなものを想起させ、生徒の想像力を高めるために、単純な丸い形であるボールを選んだ。生徒から丸いものをたくさん想起させながら、自分の考えを自分の言葉で説明する力を養う。

○出題者を生徒の中から選出することについて

自分の考えを一方的に発表するだけでなく、発達段階に応じて「友達の意見を聞いて考え、自分の意見を伝える」という活動を取り入れていく。今回の活動では、出題者になることで、「正解」と「友達の意見」を照らし合わせて、その相違について自分の考えを伝えることをねらいとする。例えば、ある生徒が「ランチルームのテーブルに似ているから、テーブルだと思います」と答えた場合、「これはランチルームにはありません。運動場で使うものです」などと答えることを期待したものである。